

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立名護屋小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力向上に向け、全職員による共通理解のもと学習規律の定着や家庭学習の充実を図る取り組みを継続して実践することができた。今後は、マイプランによる共通実践をさらに充実させ、「書く力」を高めるための指導法を工夫し、授業改善を図っていききたい。</p> <p>・月ごとの生活目標を意識した取り組みを継続して実践し、「自ら判断し、行動できる力」の向上を図ることができた。特に「挨拶」「言葉遣い」については、保護者や地域からの評価も高くなってきており、更なる定着が図れるように今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>・地域や保護者に対して、本年度の教育の目標や重点取組、実践活動の様子などを発信・周知し、理解を得ることができた。来年度は、コロナ禍による変化に対応しながら地域との連携をいかに図っていくかが課題となる。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>ふるさとを愛し、夢に向かって輝く児童の育成</p> <p>～優しく 賢く 遅しい 名護屋っ子～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>(1) 豊かな心の育成（児童理解と支援の推進） ～他へのよさに気づきながら、大らかさと温かな心で行動する子ども～</p> <p>(2) 学力向上の推進（分かる授業の実践と学力向上の取組） ～未知の世界に関心をもち、自ら進んで学ぼうとする子ども</p> <p>(3) 健康づくり・安全指導の充実（豊かな体験活動の推進） ～精一杯体を動かし、最後まで粘り強く取り組む子ども</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。							学び部 学力向上コーディネーター 研究主任
	○基礎的・基本的学習内容の定着	○海の中校各学年の家庭学習目標時間の達成率を90%以上にする。 ○家庭学習提出率90%以上を維持する。 ○学習用具の準備率を90%以上にする。	・家庭学習を工夫し、授業に生かしたり、個別指導に生かしたりする。 ・学校便り、学級便り、懇談会などで呼びかけ、家庭との連携を緊密にする。							学び部 学力向上コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全児童が、「〇〇名人」に1回はなるようにする。 ○公の場で相手を尊重する呼称(さん)をつけることのできる児童を80%以上にする。 ○進んで挨拶ができる児童を90%以上にする。 ○あいさつの場面や時間を具体的に設定して取り組ませる。	・内発的動機付けのできる児童の育成を心掛け、意識をして指導していく。 ・生活のめあてに準じて、月ごとに〇〇名人の氏名を発表・掲示し、動機付けを行う。 ・学校・学級だよりや保護者会などで呼びかけ、家庭との連携を図る。 ・帰りの会等に友だちの良さを見つけさせ等認め合う場を設ける。							豊かな部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○Q-Uテストで「学級生活満足群」の割合を70%以上にする。 ○いじめ未解決件数を0件にする。	・心のアンケートを各学期に1回実施し、状況把握に努める。 ・実践的な教職員の校内研修を1回以上実施する。 ・Q-Uの結果を基に、SCやSSW等と協力しながら良好な対人関係を築く。							生徒指導主任
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○児童へのアンケートにおいて、「自分の目標に向かって進んで取り組むことができた。」の項目を85%以上にする。	・あと少しで達成可能な目標を立てさせると共に、自ら率先して行動に移せるよう環境を整え支援を行う。 ・目標達成に向けた姿や取組内容の紹介をしたり、仲間同士で取組みに対する交流の場を設けたりし、自己肯定感の向上を図る。							
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上	・教員や委員会からの広報により外遊びを奨励したり、外遊びをよくしている学年を称賛したりする。 ・スポーツチャレンジの記録を毎回更新しようとする意欲を継続するために、記録を掲示したり学級だよりで広報したりする。							たくまし部
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童100%以上	・学級指導や保健だよりで食事の大切さを伝えていく。毎日の生活健康チェック表の項目に食事の大切さを意識できる項目を加える。							たくまし部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定や勤務時間再編により、業務改善や時間外勤務削減に対する意識を高める。 ・全職員の時間外勤務時間を把握し、必要に応じて業務の分担や見直しをし、改善を図る。							管理職
	○学校行事及び業務の精選と改善	○会議や研修及び事務等の効率化を図り、教職員が児童と向き合うなど本来の業務に専念できるようにする。	・放課後の会議や研修等を水曜日のみに設定し、授業準備や児童・保護者対応等の時間を確保する。 ・懇談会や学期末事務等における業務の効率化を図る。							管理職

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	○家庭や地域との連携	○ふるさとのよさを生かした教育活動を推進し、積極的に発信することで、ふるさとを愛し、誇りをもつ児童を育てる。	・韓国学習、茶道体験、郷土の歴史学習、宿泊学習等、博物館や公民館と連携した教育活動を展開する。 ・学校における教育活動の様子を保護者や地域に向けて積極的に発信する。							管理職
○特別支援教育の推進	○特別支援教育の充実	○定期的に校内特別支援委員会等を開催し、教職員間で情報共有・共通理解を行い、特別支援教育の充実を図る。	・児童が安定した学校生活を送れるように、一人一人が主人公の学校づくりに努め、常に寄り添った指導・支援を心がける。							特別支援コーディネーター

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------